

公立陶生病院に通院されている患者さんへ

「当院における難治性喘息の特徴と治療実態に関する研究」についての情報開示

難治性の気管支喘息は気管支喘息患者さん全体の 5～10%にとどまるものの、喘息死の約半数を占めており重要性の高い患者群と考えられます。近年、喘息のフェノタイプ（病型）の存在が明らかになっており、個別化医療の重要性が増しています。一方で気管支喘息のエビデンス（効果があることを示す証拠）を支えている臨床試験のほとんどは非喫煙者を対象としているため日常臨床における検討も必要と考えられます。このことから当院においての重症喘息患者さんの特徴、診療実態を調査することで今後の診療に役立てることが可能になると考えられます。

2016 年と 2017 年に、公立陶生病院において気管支喘息の治療を受けられた方を対象に、既存の診療記録から下記の診療情報を収集し、集計・解析します。

本研究で収集するデータ情報：性別、年齢、身長、体重、喫煙歴、発症年齢、肺機能検査などの検査結果、治療内容等

この研究では、集計・解析に際して匿名化をして情報を取り扱い、対象者の個人情報を厳重に保護しています。

研究期間は倫理委員会承認後より 2019 年 12 月 31 日までを予定しています。

上記に該当する方で、この研究についてのご質問や研究協力の拒否を希望される方がございましたら、お手数ですが公立陶生病院呼吸器・アレルギー疾患内科医師・松田俊明（電話 0561-82-5101）までご連絡いただければ幸いです。

| | | | |
|--------|--------|---------------|------|
| 研究責任者： | 公立陶生病院 | 呼吸器・アレルギー疾患内科 | 近藤康博 |
| 研究実施者： | 公立陶生病院 | 呼吸器・アレルギー疾患内科 | 松田俊明 |
| 研究協力者： | 公立陶生病院 | 呼吸器・アレルギー疾患内科 | 木村智樹 |
| 研究協力者： | 公立陶生病院 | 呼吸器・アレルギー疾患内科 | 片岡健介 |
| 研究協力者： | 公立陶生病院 | 呼吸器・アレルギー疾患内科 | 横山俊樹 |